

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年4月3日			
秋桜あさひ					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		アコーディオンカーテンで部屋を区切ったり、静養室などを活用している。	仕切った部屋に一人きりにならないように気をつける。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		バリアフリー対応にはなっている。	外の整備をしていきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		個別の活動、制作活動などに合わせて行っている。室内の清掃は毎日行っている。	さらに細やかな配慮ができるようにしていきたい。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	場面場面で仕切りや静養室などを活用している。	仕切った部屋に一人きりにならないように気をつける。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1		PDCA サイクルをもっと活用していきたい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価表の意見などを参考に対応している。	話し合いの場を多く設け業務の改善をしていきたい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	普段の会話などで意見を聞くようにしている。	さらに意見が言いやすい環境を作っていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	第三者委員会での評価は今のところ受けていない。	今後、第三者委員会の評価などを検討してみる。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5			なるべく研修に参加できる環境を作っていきたい。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		今年度より支援プログラムをHPに掲載している。	内容などは修正してよりよいものへしていきたい。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		日々の支援や保護者などからの話しなどから計画を作成している。	モニタリングなどを行っていく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		個別支援計画策定会議を行っている。	職員のコミュニケーションを強化して共通理解していけるようにしていきたい。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		個別支援計画策定会議を行っている。	個別支援計画の共有をさらに行えるようにしていきたい。
	15 こどもの通所行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	保護者からの情報などで活動、支援を行っている。	保護者以外からの情報や職員などからの意見などを活用しアセスメントに活かしていきたい。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	5領域を盛り込み個別支援計画を策定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			今後に向け、チームでの活動プログラムが立てられるようにしていきたい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	3		活動プログラムが固定化しないように会議などで話し合っていきたい。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別の活動を好む児童が多く個別の活動が中心になっている。	集団で行える活動など増やしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	常勤職員でのミーティングを行っている。	非常勤職員を含めた打ち合わせができるようにしていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3	常勤職員での振り返りを行っている。	非常勤職員を含めた打ち合わせができるようにしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日記録をつけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年に一度モニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	5			4つの基本活動についてはまだ不十分であるため組み合わせで支援していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		普段の活動、買い物外出などを行っている。	自己選択ができる場面や活動を増やしていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		主に管理者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	学校との連携は行っている。	他事業所との連携を行っていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		マチコメールや迎えの際の引継ぎなどを行っている。	引き続き学校との情報共有が行えるようにしていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			今のところ情報交換などはしていないが、今後に向けて考えていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1		今のところ進路先からそういった連絡などが無い。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	1		今後、研修などに積極的に参加していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		他事業所との交流を行ってきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		管理者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送りの際にその日の状況などを保護者へ伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		家族支援の強化を図ってきたい。
A	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約の際に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		毎年支援について保護者の意見を聞くようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		保護者からの同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		日頃、送迎時などで保護者の話を聞くようにしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者会などはないが、利用児童の兄弟姉妹などの話しを聞くように心がけている。	利用児童の保護者、兄弟姉妹などが一緒に参加できるものと考えていきたい。保護者会に関してはあまり前向きな意見が保護者からはない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者からの苦情などはすぐに対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		HPやお便りで行事、活動などを連絡している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の取扱いに十分留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		耳に障害を持っている方にはラインでのやりとりを行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1		今のところ地域の方との交流はないが、今後に向け考えていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	定期的に避難訓練は行うようにしている。	車いすの児童の避難の仕方などを考えていきたい。また、救急法の研修なども行っていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		定期的に避難訓練を行っている。	救急法の研修や学校などとの災害時の避難など行えたらと思う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		てんかん、薬などに関しては事前に聞くようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		トレーに名前・アレルギーなどを貼って職員が分かりやすいようにしている。	アレルギーに関して保護者と連絡を密にしていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	マニュアルを作成し置いてある。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	安全計画を作成してある。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットを行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		会議の際に虐待について触れている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		拘束の必要な児童に対しては保護者の了解を得ている。	